

4. 学会講演での書画カメラの原稿について

数学会の年会や秋季総合分科会での講演では、書画カメラがよく使用されます。限られた時間ですから、有効に使うと良い発表ができます。

一方、得られた成果を全部発表しようとする余り、時間に比べてあまりにたくさんの講演用シートを準備し、その結果次から次へとシートが変わって、聴衆は何もわからない、という逆の効果を生じている講演も少なくありません。また、1枚のシートに小さい字で一杯書いてあって、前の方でもよく見えないというケースもあります。このような不満が何人かの会員の方々から寄せられています。

人にもよりますが、講演用シートは大体3分間に1枚が目安ではないかと思われます。1ページあたりの行数は8行程度が遠くからでも見易いと思います。図表の利用など工夫を凝らしたシートを準備され、書画カメラを活用した講演を行うことが結局は最も印象深いのではないのでしょうか。詳細な数式は予稿集を活用するなどして見たらいかがでしょうか。また、これも人によりますが、講演用シートは手書きの方が読みやすい、ということもあります。TeXを利用するときれいなシートができますが、100人を越える教室での発表の効果は20人程度の研究会の場合とは異なります。予稿集と講演用シートは同じではありません。

大学院生を初めとする若い会員の皆様にとっては特に大切な発表の場でもありますので、ここにあってお願いする次第です。